学校だより

令和４年８月２９日

９月号

学校教育目標
～生き生き日枝っ子～

横浜市立日枝小学校

「問いをもつ　問い続ける」

校　長　加藤 智敏

39日間の長い夏休みを終え、子どもたちが学校に帰ってきました。今年の夏は、休み前から全国的に感染症罹患者数が増加し、行動制限はないとの国の判断を受けながらも、私たち日枝の地域をはじめ、各地域では行事等を自主的に中止や延期するところもありました。地域の皆様にとっても、子どもたちにとっても少し寂しさもあったかと思います。本校でも日枝っ子友の会のこーでぃねーたーの皆様が夏休み前から準備をしていた夏のイベントが延期（次回10月29日予定）となりました。ぜひ、次回は開催できるよう祈念しております。児童の皆さん、保護者の方々も楽しみにしていてください。

さて、皆さんはどのように夏休みを過ごされましたか？私は10年以上も行くことができていなかった墓参りに行ってきました。和歌山市出身の私ですが、実は広島市が両親や親族の出身地であり、自分のルーツとなっております。今回、実際に広島を訪れることで小学生の時からもち続けていた「問い」を家族と共有し再考した夏休みであったなと思っています。その問いは墓標に、昭和20年８月６日の日付で３名の親族の名が記されていることから生まれました。戦争や核兵器といったものについての考えが一気に自分事になった瞬間でした。「どうしてこのような争いが起こるのか」という小学生時代にもった問いは、今もまだ世界各地で紛争が起こっていること、また、核の使用についての言及が存在することを想うと、これからも自ら考え続けていく必要があるなと感じます。

子どもたちにも夏休み前に、「ふとした疑問を大切にしてほしい」と伝えました。本校では自分に身近な問いをもとにした学びを大切にしています。『なかまの時間』がその中核を担うと言えます。生活の中にある問いをもとに、皆で練り上げ、解決し、その過程で生まれた新たな問いについて追究していく。そして、それぞれの生活に返し、考え続けていく。この連続性ある学びのプロセスの中で、求められる資質や能力を育んでいきます。問い続ける個と問い続ける集団を育てているとも言えます。

夏休みが明け、子どもたちの問いをもとにした学びも本格化していきます。地域の方や企業の方に外部講師として来ていただく学級やケアプラザ等と連携して問題解決を図っていく学級、また、行政や町内会の方々と一緒に活動する学級もあります。地域の中に調査活動に行く児童や地域の方々に取材する児童も数多くいることと思います。ぜひ、子どもたちとの協働とともに、子どもたちの豊かな学び、より質の高い学びに向けたお力添えをお願いいたします。

前期後半が始まります。日枝小学校では変わらず、子どもたちのために人々が集える学校、そして、子どもたちにとって安心できる居場所を教職員一丸となって創って参ります。感染症の拡大も懸念され、制限がある中での活動や行事も多くご配慮をいただきますが、変わらぬご理解とご支援をいただきますようよろしくお願いいたします。